

本文

※例文は学習用に作成しています。

- ① 帝、御殿におはします。
- ② 大臣、車にて宮中へおはす。
- ③ 上、女御に「いと心苦し」とのたまふ。
- ④ 院、近き人々を召して、こまやかにのたまはす。
- ⑤ 夜更けて、帝は大殿籠りぬ。
- ⑥ 中宮、近う候ふ女房を召す。
- ⑦ 君、夜の御酒を召して、御心地よげなり。
- ⑧ 春宮、めづらしき絵を御覧ず。
- ⑨ 帝、この歌をいかにと思す。
- ⑩ 大宮、行く末を深く思し召す。
- ⑪ 上、人々の物語を静かに聞こし召す。
- ⑫ 帝、女御に唐の織物を給ふ。
- ⑬ 大臣、舍人を率ゐて参り給ふ。
- ⑭ 后、御簾の内にて笛を聞きおはします。
- ⑮ 親王、池のほとりを歩みまします。
- ⑯ 帝、わづらふ人を勞り給ふ。

設問

1. 傍線①「おはします」は、ふつうの語で言うと何という意味か。文脈に合うものを答えよ。
2. 傍線①「おはします」を現代語訳せよ。
3. 傍線②「おはす」が敬意を表す相手は、例文中の誰か。動作主をふまえて答えよ。
4. 傍線③「のたまふ」を、敬語を用いないふつうの語に直すと何という動詞か答えよ。
5. 傍線③「のたまふ」を現代語訳せよ。
6. 傍線④「のたまはす」は誰の動作か。例文中の人物を答え、この敬語が誰への敬意を表すかを答えよ。
7. 傍線⑤「大殿籠り」を、ふつうの語に直すと何という動詞になるか答えよ。
8. 傍線⑥「召す」は誰の動作か。例文中の人物を答え、誰への敬意を表すかを答えよ。
9. 傍線⑦「召し」は、ここではふつうの語で言うとどの意味か。次から選べ。
 - 。 ア お呼びになる イ 召し上がる ウ お召しになる（着る） エ お乗りになる
10. 傍線⑧「御覧ず」を、ふつうの語に直すと何という動詞になるか答えよ。
11. 傍線⑨「思す」を、ふつうの語に直すと何という動詞になるか答えよ。

12. 傍線⑩「思し召す」を現代語訳せよ（「お～になる／～なさる」の形を用いること）。
13. 傍線⑪「聞こし召す」を、ふつうの語に直すと何という動詞になるか答えよ。
14. 傍線⑫「給ふ」は、目的語（織物）をとる本動詞として地の文で用いられている。活用は四段・下二段のいずれか、また意味は尊敬・謙譲のいずれかを答えよ。
15. 傍線⑮「まします」は誰の動作か。例文中の人物を答え、誰への敬意を表すかを答えよ。
16. 傍線⑯「労り給ふ」を現代語訳せよ（補助動詞「給ふ」の意を訳に反映させること）。
17. 次の傍線の敬語について、**本動詞**か**補助動詞**かをそれぞれ答えよ。
- (1) 傍線②「おはす」
 - (2) 傍線⑬「給ふ」（参り給ふ）
 - (3) 傍線⑫「給ふ」（織物を給ふ）
 - (4) 傍線⑭「おはします」（聞きおはします）
18. 「給ふ」には四段活用と下二段活用があり、意味が異なる。四段の「給ふ」はどの種類の敬語か答えよ。
19. 下二段活用の「給ふ」はどの種類の敬語か、また主にどのような場面（会話文か地の文か）で用いられるかを答えよ。
20. 本動詞の尊敬語と補助動詞の尊敬語の違いを、「単独で用いるか」「ほかの動詞に付くか」という観点から一文で説明せよ。
21. 「のたまふ」と「のたまはす」では、一般にどちらがより高い敬意を表すとされるか答えよ。
22. 尊敬語は、誰を高める敬語か。「動作主・話の聞き手・話し手」のうちから選んで答えよ。